

伝承

第二十三号

「発信！高取国際の魅力」 飛鳥地域とともに

県立高取国際高等学校

校長 永井工仁

「日本人の心のふるさと」と言われる飛鳥の里を臨む、ここ佐田の丘・高取国際高校には、鶯のさえずりが響き、光る風がながれ神々しく薫る、見た目にはいつもと変わらぬ春が訪れています。しかしながら、令和二年の春は新型コロナウイルスの感染拡大に怯えながら、世の中の人たちは少し沈んだ気持ちになっているようです。このようなときに、古来の神々に「疫病退散」を念じたい気持ちになるのは私だけででしょうか。

私は明日香村に不思議な魅力を感じています。雷を東へ少し進んだ辺りから東南方向を眺めると、何とは言えず気持ちすがすがしく、清々しい気分になり元気がもたれます。お

第二十三号

そらくいにしへの時代から今も、八百万の神々がいらっしやるのかもしれない。そんな明日香村に今もなお延々と引き継がれている伝承芸能があります。皇極天皇の雨乞いを伝える南無天踊りや宮廷で繰り広げられた八雲琴です。明日香村をはじめとした歴史遺産廻りや農家の誇り高き歴史のひとつだと思います。

高取国際高校では、「探究なら」や「あすか学」の時間で、地域を知り課題を見つけ解決していくという学習を行っています。その授業で、毎年、この伝承芸能に触れる機会を頂戴しています。明日香村伝承芸能保存会の皆さんによる熱演に、生徒達は感動し多くのことを学んでくれています。例えば、日本書紀の故事を知り、雨乞いという生活に根ざした行事に触れ、八雲琴の静かできれいな独特の音色に古代の人々の様子を想像する等、明日香村伝承芸能保存会の皆さんのおかげで貴重な学びをさせていただいています。ありがとうございます。

さらに国際科を設置する本校は、

夢の実現 高取国際

~ Dreams come true ~



飛鳥地域の豊富な文化遺産に学ぶとともに、多様な国際交流を積極的に進め、広い国際的視野と豊かな国際感覚を備えた人間の育成を目指しています。特に米国やフランス姉妹校とのホームステイによる相互交流では、本校生徒だけでなく姉妹校の生徒達も石舞台民俗での楽しい白玉団子づくりなど、このプログラムを通して、明日香村の魅力を

感じてくれるよう

今後は、交流の場で明日香村の魅力を高取国際高校の特色と併せて、紹介させていただきたいと考えています。南無天踊りや八雲琴のような伝承芸能の魅力を伝え、将来的にアメリカやフランスから多くのインバウンド（観光客）が訪問してくれば、ここ飛鳥の地域も活気づくだろうと期待するところ

このように、学校だけではできない学びを地域の多様な資源を活用させていただき、まさに「社会に開かれた教育課程」を実現しながら、生徒にとっても教職員にとっても地域社会にとっても魅力ある学校づくりを進めていきたいと考えています。今後とも末永くどうぞよろしくお願い致します。



やくもこと 八雲琴

脇田初枝

令和二年三月七日(土)「ならー
〇〇伝統芸能こども文化祭」於・奈良市ならー〇〇年会館、三月八日(日)「第十回子ども伝統芸能祭り」於・名張市ADSホール、そして三月二十二日(日)「第十七回猿樂こどもフェスティバル」於・大淀町あらかしホールでの演奏は、新型コロナウイルス感染拡大防止のために全て中止になり、二月下旬から三月下旬まで公民館での稽古も中止せざるを得なくなつて、本当に残念なことでした。

張り切つて稽古をしていたことも達にはとても気の毒なことでした。

そんな事はありませんでしたが、明日香小学校クラブ(八雲琴)と聖徳中学校総合学習・明日香学は無事学習を終えることが出来て、ホッとしています。

聖徳中学校米田校長先生のお礼状と卒業生五名の感想文を掲載させていただきます。

「お礼状」

拝啓

春風の候、皆様方におかれましてはご健勝にてお過ごしのこととお慶び申し上げます。平素は、本校教育にご理解、ご協力を賜り誠に有難うございます。

さて、本校の「総合的な学習の時間(明日香学)」に関しまして、ご多用の中、多大なるご指導、ご助言を賜り厚く御礼申し上げます。お蔭をもちまして十月二十九日の「文化、明日香学発表会」も、その成果を遺憾なく発揮し無事に終わることが出来ました。また、それ以後の活動におきまして、ご多用の中、ご指導いただいていることに感謝致します。来年度以降もこの「明日香学」がより一層充実したものになりますようご協力の程よろしくお願い申し上げます。

敬具

令和二年二月十六日

明日香村立聖徳中学校

校長 米田次男

八雲琴

明日香の響保存会

の先生方へ

拝啓

芳しい沈丁花の香りに、早くも春の到来を感じております。ますますご清栄の事とお喜び申し上げます。いつも一方ならぬお力添えにあずかり誠にありがとうございます。でございます。

今年度も明日香学において、八雲琴のご指導をして頂き、本当にありがとうございます。私達は普段の稽古や数々の本番を重ねるごとに学ばせていただくことがありました。

この一年間、先生方と楽しく八雲琴を演奏させていただきました。二年生におきましては来年度もよろしくお願い致します。

敬具

令和元年度



八雲琴で学んだこと

勝川喜豊

僕が八雲琴を始めたきっかけは、僕が小学生の時、舞台の上でピンクの衣装を着た先生方が八雲琴で、凛とした音を奏でる光景が印象に残っていたからです。

お琴を習い始めたのは中学一年生からで、お琴をしたいと思った理由は、以前、母が八雲琴をしていたことと、祖父と祖母が伝承芸能保存会に深く関わっているの、昔から気になっていた八雲琴をしてみたいと思ったからです。

初めは楽譜とツボの位置を交互に見て演奏することがとても難しく、さらには歌詞も歌うことで精一杯でしたが、練習していくうちに楽譜とツボの位置を覚えたり、新しい曲をしたり、お琴を習い始めてまもなく、お客さんの前で演奏させてもらえることがとても楽しく、お琴を続けるモチベーションにもなりました。

そして、自分はとてもいい経験をさせてもらいました。それは、演奏会の時、自分は毎回、舞台のセンターで、掛け声や三礼を任されたことです。自分はメンバーの中で唯一の

男子で、衣装の色も女子とは違い、写真を見ると、他のメンバーと比べて経験が浅いのひときわ目立っていました。また、大勢の前で何かをする経験があまりなく、お琴を弾き間違えたり、掛け声や歌で咳き込んだり噛んだりしたらどうしよう、と不安で緊張していました。ですが



徐々に、人前で演奏することに慣れてきたことに気づきました。それは、演奏する回数で慣れてきたのもあると思いますが、もう一つ、自分に自信ができてきたからだと思います。その自信は、毎週土曜日に公民館に通って練習して、家に帰っても練習していたことで身についたことだと思います。つまり、自信というのは、自分が今までどれだけ準備してきたかで見られるのだと知りました。

八雲琴の学習を通して

井上裕一朗

それを活かして、高校受験での面接でしっかりと自分の言いたいことを面接官に伝えられるように準備し、頑張りたいと思います。

僕は二年間、明日香で八雲琴について勉強してきました。八雲琴を習いはじめる前は琴についての知識が全くなく、どのようにして弾くのか、どんな音が鳴るのか、それさえも知りませんでした。しかし、初めて八雲琴を触ったときの感覚は今でも覚えているくらい衝撃的なものでした。そして練習を重ねていくうちに、琴の面白さに気づかされていき

ました。どうしてもこんなにも単純なつくりの楽器に奥ゆかしいものがかくれているのか、と不思議でなりません。誰でもすぐに弾けるようになる楽器なので、素人や初心者にとっても、気軽に取り組めるものですが、練習をするうちに様々な技術を身につけ、難しい曲が弾けるようになるので、達成感をととても感じることが出来ます。

この二年間でたくさん曲を教えて頂いてきました。落ちついた曲調のものから、とてもテンポのはやい曲までたくさん種類がありました。その曲調をとらえて、それを演奏するときに表すということを意識していました。しかし、弾くことに精一杯で、自分の思うことを曲に表すということとはできませんでした。

これから高校入試があるので、それを終えてからもう一度八雲琴を習い、弾く技術の向上と、これから伝えていくための知識の貯えをつくっていきたいと思います。八雲琴を伝え、広めるために八雲琴の練習を全うしたいと思います。



八雲琴の経験をふりかえって

辻 菜海子

私は、この二年間で八雲琴というすばらしい明日香の魅力を見つけることができました。

私は一年生のときに先輩方の演奏を聞いて、自分もあんなふうに落ち着いたきれいな演技をしてみたいなと思い、二年生のとき初めて八雲琴に触れました。それまでは全くの初心者で、八雲琴はどういう琴でどんなものなのか知りませんでした。で

も先輩方や先生に教えてもらいながら弾いていると、自然と弾けるようになり、八雲琴の歴史も知ることができました。八雲琴は二絃の琴で平安時代頃から貴族の方が弾いていたそうです。音色は琴特有の落ち着きがあり、とても趣があります。押さえるところによってもちろん音は変わりますが、それぞれの音の高さに音の深みというか、言葉で言い表せない良さがあります。私はその音色にほれました。私にとって八雲琴は新しい経験だったので、すべてが初めてでしたが、明日香学で八雲琴を選んでよかったなと思える経験となりました。

こんなにいい経験ができたのは、一緒に活動してきたみんながいたからというのがあります。分からないところは教えあったり、失敗したときにはなぐさめ合ったりしました。みんなとても優しく、とてもうれしかったです。そして正しい指導をしてくださった先生方のおかげだと思います。いつでも丁寧な優しい指導をしてくださり、本番近いのに失敗しすぎて落ち込んで、焦っていたときも

「大丈夫。落ちついて弾いてみて。」と言ってくださって、落ちつくことができ、本番もうまうまいきました。本当にありがとうございます。

高校に入ってから時間もできたらし是非いこうと思います。またもう一度みんなで弾きたいです。

八雲琴

河本楓樹

私は、八雲琴を習い出して五年目になります。習い始めたきっかけは、お姉ちゃんの八雲琴の発表を見に行ったことです。その頃は楽器なんて学校の授業でちょっとくらいしか触ったことがなかったのですが、お姉ちゃんができていたことができないのが悔しくて、できるようになりたいと八雲琴を習い出しました。初めはカタカナで細く書かれている楽譜になかなか慣れなくて、家でも練習しながら一年経った頃には曲をスラスラ弾けるようになって嬉しかったのを覚えています。そして中学二年生になって、明日香学でも八雲琴をしました。中学生になって小学生の頃と比べると毎週土曜日の練習に行く頻度が減っていたので、毎週水曜日一時

間々二時間、班のメンバーと一緒に八雲琴を弾けるのは楽しかったです。小学生の頃は同級生の人がいなくてあまり楽しくないなと感じたり辞めたいと思ってしまふこともありましたが、明日香学で入ってきたメンバー達と、発表の前は緊張したり音を合わせたり、振り返って見ると私が習ってきた五年間で一番楽しかったなと思います。

私達三年生はもう明日香学は終わってしまいましたが、今の二年生、次に入ってくる一年生にも楽しんで八雲琴を弾いてもらえたら嬉しいなと思います。高校生になると今よりもっと弾ける機会が減ると思いますが、高校生になっても続けたいなと思っています。

そして、今まで指導して下さった先生方ありがとうございます。これからもしよろしくお願いします。

お琴を通じて

吉岡美月

私は、この二年間お琴を通じて二つの事を学びました。

一つは、当たり前だけどお琴のス

キルアップです。小六の時に一年間だけ小学校のクラブ活動で練習していましたが、練習時間があまりに少なかったので、「菅搔六段曲」しか弾けませんでした。この二年間で本当にたくさんさんの曲に出会ってきて、楽しかったです。また、弾くだけじゃなくて曲の由来や意味を先生が教えて下さったので、より理解が深まりました。発表会は緊張したけれど、拍手をもらった時は曲の練習を頑張ってきた良かったなと思いました。

二つ目は、チームワークを感じたことです。お琴は一人でも弾くことができるけれど、替手と本手が組合わさることにより曲に深みが出ます。歌はみんながうたって初めて、綺麗で聞き取りやすい声を観客に届けることができます。また、教えて下さる先生たちとのつながり、舞台のセッティングをして下さった方々とのつながり等があつて、自分達の発表が成り立っていることを思い知りました。一緒に練習してきた友達や先生、その他の関係者の方々に感謝の気持ちでいっぱいです。

奈良県立高取国際高等学校 第九回「伝承芸能鑑賞会」

明日香村伝承芸能保存会

会長 岡崎義男

令和元年五月二十九日恒例になっています郷土の伝承芸能、「八雲琴」と「南無天踊り」の鑑賞会を公演いたしました。「探求なら」の授業の中の位置づけで一時間の事前学習を前週にいたしました。季節も天候も申し分なく、校舎を取り巻く佐田の森も新緑から青葉に変わり、鶯や小鳥たちが気持ち良く私達を迎えてくれました。学校に付属する八角形の国際ホールは、四月に入學したばかりの一年生の生徒さんの熱気で出演者の顔が上気するほどでした。生徒さんは落ち着いた雰囲気の中で、楽しく鑑賞して下さいましたので、大変演じ甲斐がありました。演技終了後、楽器や衣装などの体験活動にも、積極的に参加して下さいましたので、盛り上げりのある鑑賞会になりました。

担当の先生と事前に一時間の事前学習をしたので、鑑賞後の生徒さんの感想文も充実した内容で、たくさんお送り下さいました。紙面の都合上、四名の方を紹介致します。

Aさんの感想文

今日の「伝承芸能鑑賞会」は、先週保存会の方が明日香の歴史と伝承芸能について、事前にお話をしていただいたので、様々な

視点から見ることができ、よい勉強になりました

「八雲琴」では私達の知っている「さくらさくら」や万葉集に出てくる歌などを披露していただいて、とても印象に残りました。

自分の思っていた琴の演奏と随分と違っていたので、強く印象に残りました。とてもゆったりとしたメロディで、聞いていて気持ちよかったです。

「南無天踊り」では、様々な感情を体で表現していて、見ていてあきることがなかったです。また、こういう感情はこ

て体で表現するのだなあと色々勉強になりました。

笛、太鼓、鈴、鉦の楽器の演奏と歌は、昔ながらのメロディで、とても興味を持って聞くことが出来ました。





体験の時間に、私は参加できませんでしたでしたが、みんな楽しそうにしている良い雰囲気でした。みんなの練習の様子を見て、十五分〜二十分では簡単に出来るものではないと思いました。みんなが楽しそうに練習の成果を披露しているのを見て、私も参加すればよかったと思いました。機会があれば何事にも積極的に参加しようと思いました。

今日は明日香にはたくさんさんの古い歴史があることを見て聞いて感じ取ることができました。

Bさんの感想文

「明日香村伝承芸能保存会」の皆さんにはとてもよい体験をさせて頂きました。

「八雲琴」は普段、僕が聴いている音楽とは全く違い、普通の楽器とは違った、とても美しい音が聞こえてきました。僕は鑑賞会の後の体験活動で、「八雲琴」の体験をさせていただきしました。「さくら」の曲を練習してある程度はできるようになりましたが、保存会の皆さんが、かなでる美しい音をだすことが出来ませんでした。「八雲琴」は音の種類がたくさんあり、楽譜を見て瞬時に指を動かして演奏しなければいけません。さらに、保存会の皆さんは何人もが同時に演奏をしていて、いとも簡単に弾くのがすごいと思いました。

僕は日本の「和」と言う文化にとっても興味があります。前から「琴」をやってみたいと思っていて、先生から今度「明日香村伝承芸能」で琴の体験をすることが出来ると聞いて、これはチャンスだと思い「八雲琴」を体験しました。難しかったけれど、とても楽しかったです。

「南無天踊り」は保存会の皆さん

が一人何役もされていて、とても忙しそうでした。僕は今まで地域の伝統芸能に、あまり関心がありませんでした。しかし、今回の「伝承芸能鑑賞会」を通して、各地域にはどのような伝統芸能があるのか、興味を持ちました。

私たちが通っている高取国際高校の周りには、古い歴史と素晴らしい伝統芸能がたくさんあることを知り、誇りに思いました。これからの学校生活を楽しくいこうと思いました。

Cさんの感想文

普段は見る機会がない衣装がとても印象的でした。太鼓、笛、琴など、こちらも普段は耳にしない楽器ばかりで、聞いていてもとても興味深いものでした。雨乞いの踊りは、昔の人達は本当にそれで雨が降ると信じていたのかと思うと、ちょっ



と不思議な感じがしました。しかし、その頃は神様に祈らないと生きてはいけなくらい、水には困っていたのだでしょう。

藁と竹で作られた龍の造りは簡単だけれども、動きをつけることによって、本物を連想させました。祈りの言葉や歌のようなものが途中から入ってきて、本当に神様に祈っているのだなあと感じました。何を言っているのかはよく分からなかったけれど、必死に祈っている様子は伝わってきました。見終わってから、私は笛を体験しました。竹に穴を開けただけのすごく簡単な構造で、音が安定しにくいなあと感じました。吹



き方はフルートやピッコロと同じだったので、音を鳴らすことが出来ました。チューニングの仕用がないので、全員で音程を合わせるのは、すごく難しそうだと思います。竹に穴を開けて、音を鳴らそうと最初に思い付いた人のアイデアはすごいなあと感じました。

Dさんの感想文

通学している自分の高校が世界に誇れる古い歴史的と伝統のある地域に建学されていることを誇りに思いました。保存会の方々による昔ながらの道具や素晴らしい芸能を目で見て、肌で感じられたことをうれしく思います。

保存会の方々は高齢にもかかわらず、素早く体を動かし、太鼓や笛の演奏もあれば、大きな声で歌を唄い、年齢を感じさせない活躍で、年をとってからも、地域の良さを伝えておられることは、すごい事だと思います。

保存会の方たちは演技を楽しんでおられました。

使う道具や踊りの様子も場面場面で、様々な雰囲気と流れが全然

違ったところが、不思議でもあり、楽しいところでもありました。

体験の中で、僕はホラ貝がすごく気になりました。同じ部活の人が挑戦しましたが、全く鳴りませんでした。保存会の方はきれいな音色でホール中に響き渡りました。簡単そうに吹いているけれども、練習とコツがいるのだなあと感じました。

もう一つ、小太鼓のようなものがありました。近くで見えていたけれど、リズムの取り方が難しくて、場面が変わるとリズム

も変えなくてはなりません。体験では二種類のたたき方を教わりましたが、簡単に覚えられるものではないかもしれません。

今回、保存会の方々の演技を実際に見ることが出来て大変良かったです。

他の高校では



できないことかもしれないし、高取・明日香の歴史や伝統を学べることが出来て、いい思い出になりました。

僕は普段、人気の音楽を聴いたりテレビを見たりしているけれど、感じの違う伝承芸能をみて、タイムスリップをしたようで楽しかったです。

高取・明日香は伝えていただきたいように、日本や世界に自慢できる素晴らしい地域であって、誇りをもって毎日の高校生活をより楽しくしていこうと思います。

まんようろうしよう 万葉朗唱

万葉朗唱の会に参加して

明日香万葉朗唱 柳谷信子

昨年私は、万葉朗唱の会にご縁を頂きました。ちょうど、元号が令和となり、万葉集ブーム到来の春でした。私は、歴史が大好きです。しかし万葉の里、明日香村に嫁いですでに三十年以上たつのに、お恥ずかしいことですが、万葉集の歌を一つも覚えていませんでした。しかし、この万葉朗唱の会に入らせていただき、暗唱することができたのです。犬養節や、山田耕作先生のこの道や、勝川京子先生作曲のメロディにあわせ、美しい声の先輩の皆様方と一緒に万葉集を歌います。(月に一度、万葉文化館の入口のところで、万葉衣装で歌い、来館者に喜んで頂いています。)すると、大和言葉の響きがとても心地よく、自然と覚えることができました。その事が、とても嬉しく感じます。明日香を案内する時、万葉集の歌が歌えると、なかなか素敵だなあと思っていたからです。万葉

集の和歌を、ゆつくりと歌いますと、どのような方が、どのような時代に、どのような状況下で歌われたのか、興味がグングンわいてきます。昨年は、令和の元号の所以となった、大伴旅人主催の梅花の宴のことについても、勝川先生や岡本三千代先生にも、様々なエピソードを交えて、とても楽しく教えていただきました。

梅は外来の花で当時、新種の珍しいものであった事。宴の主人、旅人は出身は明日香村。お酒が大好きで、生まれ変わるなら酒壺になりたいと歌うような大変ユーモアあふれる方だったこと。都から遠く離れた福岡、太宰府の役職を命ぜられ、その旅の疲れのせいで、最愛の妻を亡くしたこと。そんな独り身になった旅人を通して、親友の山上憶良が次のような歌をその梅花の宴で歌っているのです。

春されば まづ咲くやどの 梅の花
ひとり見つや 春日暮らさむ

山上憶良

このように、まさに、万葉集は古代日本を生きた人々の心のこもったメッセージです。現代を生きる私たちもその思いやりの心を共感するこ

とができます。大和言葉は、少し解りにくいですが、声に出して何度も読んでみると、古い日本語であるからか、どこことなく意味が心に沁み出してくる感覚を覚えます。同時に、日本人の先人の方々の声が聞こえてくるような感覚がしてまいります。日本人のDNAが魂を震わす感じですね。とても繊細で、表現豊かで美しい大和言葉は、日本の歴史の奥深さを感じることができます。

万葉集は、奈良時代の終わり、旅人の息子である大伴家持などの尽力によって出来上がった最古の和歌集です。四千五百首以上もある歌の作者は天皇から庶民に至るまで様々な階層の方々に、歌う内容も様々です。私の住む岡大字の飛

鳥の宮跡(旧伝承板葺の宮跡)にある、明日香村文化協会三十周年記念事業として建立された、日本画家・平山郁夫氏揮毫の万葉歌碑には、



2020年1月26日 於 明日香村中央公民館

采女の袖吹き返す

明日香風 京を遠み

いたずらに吹く

志貴皇子

とあります。これは有名な天智天皇の皇子の歌です。

志貴皇子は天智天皇(三八代 六六二―六七一)の没後、皇位は天武天皇に引き継がれたので、志貴皇子は天皇にはなりませんでしたが、その後、奈良時代の政治混乱を、収束させる形で、光仁天皇として即位されて、現在の皇室につながる継承者となりました。それまで、壬申の乱以降、皇位は専ら天武系の天皇の血筋によって受け継がれ、奈良時代も続いていました。天武系の血筋が途絶えそうになった時、天智天皇の血統である光仁天皇(四九代・七七〇―七八〇)が即位されたのでした。つまり、現在の皇室は、志貴皇子のご子孫とされるわけです。この志貴皇子も、お生まれは、後岡本宮、今の飛鳥の宮跡の辺り、つまり明日香の出であるといわれています。

万葉集に美しい響きの歌を六首残しています。その孫の桓武天皇が、平安京に遷都したことを思いますと、

今の日本にとって、大変重要なお方であつたこと、やはり、明日香村は日本の歴史における、有名人の故郷であり、その人々が眺めた風景が、今も当時と近い形で、現代に残る場所として、もっと誇りに思っているのだなあとと思います。

万葉集を歌うことで、日本に生まれて本当によかったなあと感じます。今、世界中が、目には見えないウイルスによる不安に、おびえる状況が続いています。こんな時こそ、お互いが、目には見えない心を、信じあえる村であり続けることを、願っています。

万葉集を歌う時には、息を長くする必要があります。意識して腹式呼吸をします。いわゆる深呼吸です。この腹式呼吸を続けると体温が上がってきます。結果、免疫力を高めることになります。事態が一日も早く収束することを祈りながら、明日香村の新鮮な空気を思いっきり吸い込んで、一緒に万葉集を歌いませんか？

「只今、会員大募集中です！」

なもて

南無天踊り

昔から伝わる南無天おどり

明日香小学校

五年生 谷川聖奈

私は、小学校三年生のあすか科で、南無天おどりに、きょう味を持ちました。

お母さんに

「無天おどり、やってみたい」

と、聞かれたので、すぐに

「やりたい!!」

と言って入りました。明日香村中央公民館での練習は、一ヶ月に一回、夜の七時三〇分から九時までの一時間半です。最初はきんちようしましたが、おばさんたちが、お茶やおかしをくれて、うれしかったです。

どんなおどりをするのか、練習を見学しました。練習では、見て覚える事が多くて、困りました。おずかしかったけど、練習するうちに、どんどん覚えていきました。

万葉文化館で発表するようにになり、南無天おどりが楽しくなりました。見に来てくださる人達が、南

無天おどりにきょう味を持って、しんけんに見てくれているのが、おどっている最中に見えるので、うれしいです。

南無天おどりのおじいさんやおばさんに、ささえてもらって、楽しく頑張っています。

今は第二部をしていますが、これから他の部も覚えて上達していきたいです。

南無天おどりの第二部では、細かい動きがあります。たいまつを持っておどる部分では、うでをしっかり上げないと、いけなかったりするので、うでが痛くなったりします。タイミングや、他の人と合わせるのも、おずかしいです。

おじさんやおばさん、お姉さん達は色々な役をされていて、すごいなあと思います。

私は一つの役しかしていないので、

「だめだなあ。」や

「もっと、練習頑張らないといけない」と落ち込む時もあります。それでも、おじさんやおばさんが、

「がんばっていたね。」

「上手だったよ。」

と、言ってくれるので、練習や発表

会を、がんばっています。

練習の日の、きゅうけい時間には、中学生のお姉さん達が、第三部にする、踊りながら、小さな太鼓を使う練習を教えてください。

お姉さん達はすごく優しく分かります、教えてくださいるので、練習はとっても楽しいです。

私は南無天おどりが楽しいので、大きくなっても、この伝承芸能を守っていきたいです。

明日香村伝承芸能に 魅せられて

桜井市 大塚美喜子

今から一四〇〇年の昔、飛鳥時代は、女帝天皇が大いに活躍し、輝いた時代であると聞き及んでいます。その一人が、皇極天皇です。その頃に生まれたのが、南無天踊りだそうです。南無天踊りは、皇極(斉明)天皇や貴族、農民など階級とは関係なく、日照りが幾日も続き、田畑が枯れ困り果てた明日香村の人々は

「雨が降って欲しい」

という一途な思いや、執念が、熱き思いになり、南無天踊りに込めら

れています。その当時、水の神様として、崇められていたのが龍神様だ

そうです。龍は人々の心に、活力をみなぎらせ、上昇する気持ちを与え、雨乞いを導いて下さるそうです。

南無天踊りにも、龍が登場し、踊りに活力を与えてくれます。

て天つくつ 天つくつ

て天つくつ 天つくつ

独特のお囃子が、眼を閉じ、耳を澄ませば、忘れかけた懐かしさを、快く包んでくれます。

て天つくつ 天つくつ

心地良いリズムが、地元の人々によつて、踊りと共に受け継がれ、今では、日本最古の奈良明日香伝承芸能となり、保存、継承されている事に、頭の下がる思いです。

私の心を動かしたのは、スタッフの皆様方が、高年齢にも関わらず、一生懸命に、歌ったり、古典楽器を奏でたり、太鼓を叩いたり、その音にあわせ踊り、リズムを取られている姿でした。

そんな私は、踊りが複雑で、リズムをとりながら踊るのが大変ですが、先輩の方々の力強い頑張りに負けず、

頑張っていききたいです。

また、時が流れ、人が変わっても、南無天踊りが伝承されていく事を願っています。

明日香村の皆さん、南無天踊りに参加しませんか？



2018年11月18日 於 万葉文化館

あすかけまり

飛鳥蹴鞠

新元号「令和」と

飛鳥蹴鞠

飛鳥蹴鞠代表 服部光晴

二〇一九年五月一日より施行された新元号、その元をたどれば「大化」にさかのぼる。日本で最初に用いられた元号はどのように生まれたか。推古天皇の御世、聖徳太子は儒教の考えを取り入れた冠位十二階の制を定めた。憲法十七条、三教の義疏、『天皇記』、『国記』などの編纂と国の体制を整えていった。

六〇七年「日出る処の天子、書を日没する処の天子に致す、恙なきや云々」と記し、煬帝を怒らせた出来事の際に小野妹子を遣隋使として送った。こうした積極的な大陸交流により、摂政の聖徳太子と大臣蘇我馬子両指導者は次々と改革を実行して、大きな成果をあげていった。大寺の建立も加速した。

大陸や半島情勢の流動化の中、太子が六二二年死去し、蘇我親子の力が目立ってくる。これを好ましく

思わない中大兄皇子と中臣鎌子（後の鎌足、天智天皇から藤原姓を賜り藤原氏繁栄の祖）が結びつきを強めた。その出会いが、六四四年皇極三年正月、蹴鞠の会での出来事である。鎌足はこの少し前、天皇から神

祇伯の地位を与えられている。このため皇室の新年儀式・蹴鞠の会に同席していたようである。これを機会に中大兄皇子と近づき意気投合、南淵請安に教えを受け、道中、蘇我氏対策を話しあった。多武峰には鎌足

公を祭神とする

談山神社が鎮座しており、近くに語らいの森が、明日香村稲淵には鎌足公を祭神とする談山神社があり（明日香村文化協会発行「繫」）いづれも大切にお祀りされている。

六四五年六月一二日、板蓋の宮で入鹿が殺された。（乙巳の変）。蘇我氏の反撃を恐れた中大兄皇子と中臣鎌足は飛鳥寺に立てこもり、あるいは明日香村文化協会発行「繫」の地元、言い伝えに寄れば、

二人は、板蓋宮から明日香村役場を通り島庄・島宮、桃園の墓（石舞台）を横目に、細川から尾曾にまで走り抜けた。振り返ってこままでくれば大丈夫と一息ついた。誰云うとなく『もうこんの森』と言われるようになったとか。

翌日には蝦夷が甘檜の丘にある邸宅に火を放ち、『天皇記』、『国記』などと、ともに焼失させ、自害した。六月一四日軽皇子が即位し、孝徳天皇となる。十九日初めて年号を定め、大化とする。九月古人大皇子被害される。六四九年には蘇我石川麻呂が被害され、蘇我氏掃討完了する。六四五年一二月、難波長柄豊崎宮遷都の動き。六四六年一月一日改新の詔「一条 公地公民、二条 中央集権的政治体制の確立、三条 班田制、四条 新税制・租庸調。三三月薄葬令、六五〇年白雉と改元。

乙巳の変を契機に聖徳太子以来の改革が進み、大陸式の元号が初めて採用された。つまり、蹴鞠の会が日本で最初の元号「大化」につながるきっかけとなった。



2019年5月4日 於 高松塚公園

たまゆら

「飛鳥の渡来人をさぐる」

明日香村教育委員会
主任技師 長谷川 透

今年は『日本書紀』成立一二〇〇年目を迎えます。『日本書紀』は舎人親王が撰上にした日本最古の正史で、漢文編年体で記述されています。当時、『日本書紀』を記述するには、漢字を嗜む人しかできません。近年の研究では『日本書紀』の述作には、中国からの渡来人や渡来系氏族出身者によって書かれていたことがわかってきました。

日本列島には弥生時代以降、幾度も渡来文化の波が押し寄せます。弥生時代の初期、大陸から水稻農耕や金属器・青銅器・鉄器が渡来人たちによってもたらされました。コメを貯蔵する壺や煮沸用の甕など、機能に応じた弥生土器が作られ、日本の生活様式ががらりと変化します。古墳時代になると、朝鮮半島からの渡来人が硬質の焼き物である須恵器をもって海を渡ってきました。

彼らは須恵器生産技術も携え、窯で須恵器の生産を始めました。生活様式では、竈(カマド)を用いた調理方法に変化し、甑(コシキ)を使って蒸して食べるようになりました。一部の建物では、寒冷地仕様のオンドルを備え付けていました。このほか、馬の利用や飼育方法も伝わりました。馬飼いのための馬具や戦で使う鉄製品など国内では金属加工技術も進展していきました。古墳時代の渡来人たちは、故国での動乱を避けるため、海を渡るといふ危険を冒して渡来してきました。亡命のため、家族の安全を守るため、多くの渡来人たちが海を渡ってきました。多くの渡来人は集団で渡来し、日本各地に新たな技術や知識、生活様式を移植していきました。

『日本書紀』によれば、飛鳥地域にも多くの渡来人が住んでいたことがわかっています。応神天皇の時代には、檜隈を本拠として活動した東漢氏(やまとのあやうじ)の祖である阿智使主とその子都加使主をはじめ、雄略天皇の時代には、檜隈民使博徳などがよく知られています。彼らは朝鮮半島や中国大陸に赴き、

陶工・鞍部・画部・錦部など様々な職種の技術者を飛鳥に連れてきて住まわせました。飛鳥時代に活躍した鞍作鳥(止利仏師)や南淵請安先生も古墳時代に飛鳥にやってきた渡来人の子孫なのです。

渡来人の活躍は、時代と文化を画的に飛躍させます。飛鳥寺の造営時には、百濟から寺院造営の専門家と技術者が来日しました。飛鳥寺造営に用いられた様々な技術は日本各地に広まり、後に宮殿や古墳の造営技術にも応用されていきます。百濟からの渡来人は日本に新たな技術革新をもたらしました。また、推古天皇の時代には、百濟人である味摩之が呉に渡って伎楽を学び、大和桜井に住んで、伎楽の舞を教習したと言われています。この桜井の地が豊浦にあります。向原寺付近とされ、向原寺境内には伎楽伝来の地の記念碑が建てられています。このように、飛鳥に來た渡来人たちは、外来の知識・文化・芸能をもたらし、日本の国づくりに貢献しました。飛鳥の渡来人を探ってみると、「文明開化」の音が聞こえてきます。

明日香村伝承芸能保存会の 定例公演について

明日香村伝承芸能保存会は、奈良県立万葉文化館にて、年に六回(四・五・六・九・十・十一月)の各月の土曜日毎に定例公演を実施しています。

場所・奈良県立万葉文化館
時間・午後一時半〜二時十分
第一土・飛鳥蹴鞠

(高松塚或は石舞台公園)
第二土・万葉朗唱(玄関前)
第三土・八雲琴(館内ロビー)
第四土・南無天踊り(玄関前)

令和二年度の四月・五月の定例公演はコロナの影響で、会場が休館となりました。六月は公演できるよう願っています。

「伝承あすか」第二十三号

発行 令和二年五月

明日香村伝承芸能保存会

会長 岡崎義男

編集 明日香村伝承芸能保存会
題字 「伝承あすか」勝川喜昭書